

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年6月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	醤油の出荷量は、前年同月比かなり減少した。今後の推移に注目したい。
	パン・菓子製造業	百万石祭りの観光客に期待をしていたが、売上は伸びなかった。
繊維・同製品	織物業	前月と同様で特に変化は認められない。
	ニット生地製造業	先月と比べると弱含みのものも出て来たが、前年同月に比べると概ね横這いといったところである。
	その他の織物業	6月度は、昨年同月に比べ若干の売上減となった。平成18年に入ってから、売上減少が続いているが、当面このような厳しい状況が継続すると考えられる。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	前年同月と比べ全体的に上昇傾向であるように見えるが、昨年度が異常であった為、このような上昇傾向に見えるのである。
	製材業、木製品製造業	6月度はプレカット開業以来二番目の生産坪数を記録し、4、5月の減少を挽回した。ただ、資材の高騰は依然進行中であり、特に合板関係は値上げ幅が非常に大きく、30%を越える物もあり、今後の動向に注目している。
窯業・土石製品	砕石製造業	6月の組合取扱出荷量は、対前年同月比生コン向け出荷が3.4%、アスファルト合材向け出荷が55%増となり全体出荷量は8.2%増加となった。4月～6月の第一四半期の対前年同月比でも10.4%の増加となっている。これは南加賀地区生コン向け出荷量が59.4%増加した影響によるものと思われる。
	陶磁器・同関連製品製造業	6月に名古屋で行った新作発表会の動員数は前回に比べ減少した。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリート出荷量は前年同月比102.2%とプラスの出荷量となった。地区別に見ると南加賀、鶴来・白峰、羽咋・鹿島地区でプラスとなり、金沢、七尾、能登地区はマイナスで推移した。官公需・民需では官公需が相変わらず厳しく前年同月比93.1%、民需は活発に推移して前年同月比109.7%となった。県全体の生コンクリートの出荷量は、2ヶ月連続でプラス出荷となったが、金沢地区の落ち込みが心配である。
	粘土かわら製造業	3、4、5月と前年より販売が大きく減少したが、6月は昨年と同じ販売量が確保出来た。7月中頃より新工場用製品が出来るので、販売増強のための記念セールを実施する予定である。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	鉄工業を中心に景気は順調である。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様で特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	業況は大きな変化も無く比較的順調に推移してきている。
	鉄素形材製造業	前月と同様で特に著しい変化は生じていないが、以前のような活発な状況から鈍化傾向に転じてきているとの声の一部から聞こえるようになってきた。
一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	業界で実施しているD I調査の結果を見ると、原油価格の高騰による原材料価格の値上げが大きな足枷となっており、今後の業界の動向にどう影響するのか注目される。この動向によって設備投資が大きく左右される。
	繊維機械製造業	機械部品加工の受注は繊維機械、建設機械、工作機械、その他殆どの機械産業向けに好調が続いている。しかし、仕事量は十分に確保出来ても収益面ではバラツキが大きく、素材費や運送経費等のコストアップを価格転嫁出来ないところは厳しい状況が続いている。特に何年間も継続受注している仕事は値上げが難しい。採算性は悪くても量が多く継続する仕事と、量は少なくとも採算の良い仕事をいかにバランスを取るか、経営者の苦慮するところであり、力量が試される場所である。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年6月分)

	プレス、工作機械	工作機械業界は、生産が追いつかない状態が続いているところと、最近受注が減少しているところと二極化が見られるが、全体として高い水準で推移している。これを受けて板金業界も一部で整備を行うなど、積極的な姿勢も見られるようになってきた。
	機械金属，機械器具の製造	相変わらず高水準の操業度を維持している。工作機械の増設など生産能力アップのための設備投資が幾つか見られ、先行期待感の具現化であろうと思われる。自社の能力以上の受注をこなすため、外注せざるを得なくなり、資金の外部流出が増え、利益圧迫要因となっているケースも発生している。
その他の製造業	漆器製造業	6月の展示会においては、最大規模となる陶器業界との合同見本市を開催したが、客足は例年並みであった。秋シーズンの販売見込みについては楽観視できる状況には無い。その他木製カタログについては前年対比10%の売上増であったが、産地全体としては引き続き7~8%の落ち込みと見られる。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	絹織物に関して生糸は数ヶ月前の値段に下落している。
	農畜産物・水産物卸売業	先月に続き6月も売上高がやや増に転じた。ようやく売上減少が止まり今後に期待している。
	一般機械器具卸売業	住宅着工戸数も上向き傾向で推移し、箱物(ビル、店舗、工場)も金沢市内を見渡すとかなり目立つようになった。しかしながらガソリンや電線、その他照明器具の値上げが進み先行きが不安である。そのような事を見越しての仮僞のような部分もあり、建築業界関連は相変わらず苦戦している。
小売業	燃料小売業	価格が上昇したため需要は減少し売上も減少した。売上数量減をカバーするため価格の値引き競争が勃発。ますます利益は減り、厳しい経営を更に圧迫している。
	機械器具小売業	7月1日から開始される地上デジタル放送と同じ内容の試験電波が6月より開始され、お客様の関心も高まり、液晶・PDPテレビの需要が増加した。又、6月は各メーカーの合展も開催され、売上実績を大きく伸ばした。しかしルームエアコン・冷蔵庫の夏物商品は不振であった。地域店の伸びは110%となった。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	景気回復傾向で消費量も上向きとの事であるが、大型店の開店や出店のラッシュとなっており、地域の衣料品業界は将来に不安を募らせるばかりである。6月は前半は健闘したものの後半は苦しい状況に陥り前年度98.2%に留まった。
	鮮魚小売業	前半は入荷量がやや少なめに推移していたが、中旬頃から天候が回復し入荷量も増加した。ただ、量・種類が豊富の割には、消費がついて来ない状況となり、仕入をやや控える業者が多かった。
	他に分類されない その他の小売業	6月前半は5月同様順調に前年を越える売上であったが、中旬以降は客足も売上も昨年並みとなった。6月は大型イベントである百万石まつりに期待していたが前年より売上が悪かった。
	百貨店・総合スーパー	6月の売上は、予算比85.6%、前年比99.2%と数字的には前年並みであったが、店舗別では良い店と悪い店の差が出た月であった。時期的に見ると6月上旬はまずまずであったが、それ以降はあまり良くなかった。個店別では37店舗中17店舗が前年をクリアした。
	米穀類小売業	元気の無い米屋さんがあまりにも多すぎる。今後は生産者の手持ちも少なくなり、直売も少ない事から販売業者の売上も伸びると思われる。あと2ヶ月で新米も出回るので活気が出る事を期待したい。
	商店街	近江町市場
尾張町商店街		例年のごとく、月の内の半分以上が曇りになるため、お客さんがあまり外出しない傾向があるようだ。ただ、今年は雨が少なかったため、近隣の買い物と比較的多かったようで、スーパーも売上を確保出来た様であり、商店街でもそれなりに売上があったのではないかとと思う。

非
製
造
業

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年6月分)

サービス業	旅館、ホテル	学会や大会等が順調に入っておりやや好転の兆しがある。しかし、原油価格の高騰により消耗器材等が影響を受けている。今後もこのような厳しい状況が続くものと思われる。
	旅館、ホテル	本年度は対前年比がマイナスで推移しており、今後の底上げが必要になってきている。4~7月はオフ期であり、資金繰りの面で厳しい状況が見られる。
	自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比1.5%増、前月比7.3%増となった。新規検査状況は、前年同月比0.7%増、前月比20.6%増となった。
	旅館、ホテル	宿泊人員は既存旅館、新規開業旅館とも増加した。売上は全体的には増加しているが、実態は一次消費、二次消費ともに消費額は低下傾向にある。また、増客が見込めない状況にあり、景気回復の実感が無い。
建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比4.4%減となった。内訳は民間土木3.8%増、民間建築25.8%増となり、民間全体では21%増となった。公共土木は47.2%減、公共建築は8%減となり公共全体では40.5%減となった。最近は公共土木の減少が特に目立つようになった。
	一般土木建築工事業	公共・民間工事ともに受注の減少による競争激化と低価格落札が続いており、ますます収益が上がらない状況である。又、建設業を取り巻く環境が年々厳しくなっており、特に公共工事に頼っている企業は存続すら危うい状況になってきているのではと危惧している。
	板金・金物工事業	住宅の工法“大工が建てる日本住宅”から“工場生産方式の住宅”に変わり、獨創性が無くなると同時に、全国统一の単価となり、職人の「技」の見せ所が無くなりつつある。依って曾ての日本独自の“地方の住宅”は無くなり、全国一律のものが横行し、個性の無い時代に突入した。当業界でも“プリキ屋の技”を身に付けた若者が減少しつつある。単なるマニュアル通りの仕事をする取付け屋が増えつつある。
運輸業	一般乗用旅客自動車運送業	景気低迷が続く中、タクシー業界は規制緩和に伴う競争時代4年目に入り、各社とも極めて厳しい舵取りを強いられている。安全確保とサービスの向上は公共交通機関に課された当然の使命であり、こうした地域の期待に応えるため、また他社との差別化を図るため、タクシー無線のIT化が今日絶対不可欠なものとなっている。
	一般貨物自動車運送業	売上高の減少が目立つ。軽油価格は引き続き上昇し、経営環境はかなり厳しい状況である。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等